



草声

母さんのお正月

明けましておめでとーござい
ます。
今年もお正月様がやって来ら
れました。お陰様で。無事に。
みほとけの母を呼びをり
年明くる

石原八束

お正月様をお迎えすると、迎
りの気が一新します。家の中
は清新で緊張した空気が巡りま
す。庭に下りても、通りに出
ても、昨日までとは違います。新
年の気が充ちていて。
人の顔も清しく見えます。子
どもたちの顔も、妻の顔も、そ
して母さんの顔も、晴れ晴れと
して綺麗に見えます。それはお
正月様の前で、心を締めて謙虚
になつてからです。きつ
と。お正月は、初春といひ、明
けの春といひます。千代の春と
も、四方の春ともいひます
「春」と呼ぶ中には、新年を寿
ぎ、一年の豊穡を祈るといふ尊

譲の意がこめられています。
元朝や光り流るる

五十鈴川

古川芋蔓

童謡

一月一日

上 真行一作曲 千家尊福一作詞

昔の小学生は、元旦には必ず学校に集
まって式に参列し、みんなこの歌を斉唱
し、落雁のお菓子をもらって帰宅して
いた様です。現在でも口伝えて歌詞の内容が
分からないまま、お正月には必ず歌わ
れる歌です。

一、年の始めの例として、
終なき世のめでたさを、
松竹たてて、門ごとに
祝う今日こそ 楽しけれ

二、初日のひかり さし出でて、
四方に輝く 今朝の空、
君がみかげに 比えつつ
仰ぎ見るこそ 尊とけれ

上 真行 (一八五二—一九二七)
雅楽の演奏家で、のち東京音楽学校教
授。ヴァイオリンの名手でもありました。
千家尊福 (一八四五—一九二八)
出雲大社の第六代宮司。のち西園寺
内閣の司法大臣をつとめています。

(鍵山)

小さな親切

小さな親切、みーつけた!

東京都 女性 (31)

うちの長男、翔一が四歳の頃、二歳の弟といっ
しょに遊んでいたんですが、知らないおばちゃん
にジュースを買ってもらっているではありません
か。

「翔一、どーしたの?」と聞くと、「お母さん
ですか?」とおばちゃんに聞かれ、「はい、そ

いじめ

「うごもたちを
考えよう」

いじめが問題になってかな
りになります。いじめられた
ために学校へ行けなくなつた
子どもやいじめにあつて、自
殺する子どもが出るなど、い
じめの問題は深刻化していま
す。

◎二つの事例から

神経質で几帳面なため、
新しいことに不安を感じるU
君が、最近、学校へ行くのを
いやがりだしました。このよ
うな性格の子どもには登校拒
否が多いのですが、一般には
小学校の高学年以降に出現
するので、小学校二年生のU
君では少し早すぎます。どう
やら神経症的なものでなく、
いじめによるものらしいが、
本人は否定しています。

登校拒否の場合、私の経
験では、本人が学校へ行かな
い理由を「しんどいから」「先
生がこわいから」などとほつ
きりいうと、かえつてそれ
は、本当の理由でないことが
多いようです。U君のよう



笑顔 ひろがる あいさつの町
鍋島中校区 たんぽぽ会
あいさつ運動

に、否定したりごまかすこ
ろに、逆に真実性があるよう
に思えました。
学校のいじめは、低学年で
あればあるほど、先生や親が
協力して、徹底してやめさせ
るべきだ、と考えている私
は、母親に、先生と一緒に解
決するように指導しました。
小学二年生のいじめすら適
切に処置できない先生にも問
題はありそうに思えました
が、V君の行動も異常に思え
たので、V君の母親に会うこ
とにしました。

が、自然な子どもらしい要求
を心の奥に抑え込み、むしろ
表面だつて「やりたくない」
と親に言える子どもより、強
い抑圧された不満がうっ積し
ていたと考えられます。

こうして、なんとなく自分
と同じように親のいうことを
聞き、自分よりオドオドして
いるU君をみた時、彼をいじ
めることで、自分のどう表現
してよいかわからない不満
を、V君は解消していったと
考えられました。そのうえ、
V君の心情をわかつたしな
い親や先生が、彼の不満の唯
一の表現であるいじめだけを
みて、体罰で阻止しようとし
た行為が、よけいに彼のいじ
めを助長していたと考えられ
ました。

また、いじめられて学校へ
行けなくなつた子どもをみて
みると、彼らは「いじめられ
やすい」あるいは「いじめを
誘い出す」ような素因を持っ
ていることが多いのです。

彼らはいじめられる側の子ども
の目につきやすく、すぐにい
じめの対象になります。いじ
める側の子どもも心を病んで
いるので、彼らは弱い子ども
をいじめること、心の病を
誤つた方法で発散、解消させ
るのです。

最近では、いじめの問題がク
ローズアップされており、マ
スコミに大きく取り上げられ
ることも多くなりました。

しかし、V君の例でも分か
るように、実際に治療の必要
なのは、いじめられる側なかも
しれません。V君のように、
治療の場にくる親や子どもは
まずいけません。最大の問題は
ここにあります。

「子どもたちのSOS」より



漢方と調剤

健康に感謝

ヤマト薬局

尼寺店

☎62-8162

佐賀市大和町尼寺 グリコ北

処方せんは
どこの処方せんでも受付ます。



漢方と調剤

健康に感謝

ヤマト薬局

立石店

☎51-2882

〒840-0851 佐賀市大和町東山田2100-5

処方せんは
どこの処方せんでも受付ます。



健康を考える 養正会

医大前 養正会薬局

薬剤師 鍵山 稔明

☎30-2694

〒849-0937 佐賀市鍋島4丁目1-6

処方せんは佐賀医大病院ほか
どこの処方せんでも受け付けます。

お正月の漢方

屠蘇

正月元旦に屠蘇酒を、最も幼い者から年長者へと順序よく飲んでいって、一年の邪気を払い、無病息災の祈りをこめるといふ風習は平安時代に中国から伝来してきたものであるが、当時は天皇家のみの風習であった。屠蘇は「元旦に是を飲めば、年間病なし、一人是を飲めば、一里に病なし、幼少より是を飲めば、老後に病なし」といわれ、中国の養生医学の一つの所産ともいえるものだけに、その後、この宮中の風習が広く民間にひろまった。昔は、その作り方はなかなかやっかいなものであった。まず、年の暮になると、各家で一〇種に近い生薬を調合して屠蘇をつくり、それを緋の絹の袋に入れて井戸のなかにつるしておき、元旦になってから朝早くとりだし、酒にひたして飲むのだが、酒のかわりに口あたりのいいみりんになったのは明治時代になってからである。松の内を過ぎると残りがすを井戸に投じ、この井戸水を飲めば、その年は家中のものが流行病にかからないといわれた。しかし水道の発達とともに、井戸に屠蘇を投じる風習はすたれてしまった。江戸時代には、患者が年の暮に薬札を持っていくと、体にいいから…と言って医者が返札に屠蘇をくれるという風習もあった。現在、医院、薬局などで屠蘇をくれるのはそのなごりである。時代の移り変わりというか、最近

正月に家庭で、屠蘇酒を飲み新年を祝う風習が、次第に薄れてきた様な気がする。しかし屠蘇は、日本の正月のゆかしい祝儀としてだけではない、優れた薬酒としてぜひ忘れずに残しておきたいものです。屠蘇にはいくつもの処方がありますが、最も普通に用いられる六つの生薬とその薬効を述べると、ほぼつぎのようになります。

山椒…(サンショウの果実の殻)
健胃薬であり腹痛をおさへガスの排出をよくする。回虫の駆除。

防風…(ハマボウフウの根)
発汗。解熱。鎮痛。

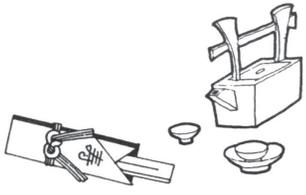
白朮…(オケラの根)
健胃。整腸。利水。

桔梗…(キキョウの根)
去痰。鎮咳。排膿。

陳皮…(ミカンの皮)
健胃。鎮咳。鎮吐。

桂枝…(ニッケイ)
解熱。鎮痛。健胃。

屠蘇を漢方医学的にみると、食欲増進、健胃、整腸、駆風、去痰などの作用があり、その芳香は精神を爽快にして元気づける効果があるとされています。屠蘇が優れた薬酒であることは、容易におわかりいただけると思います。



陳皮



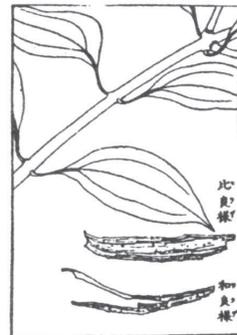
山椒



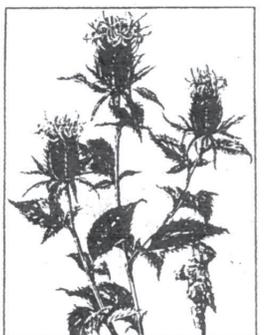
桔梗



防風



桂枝



白朮

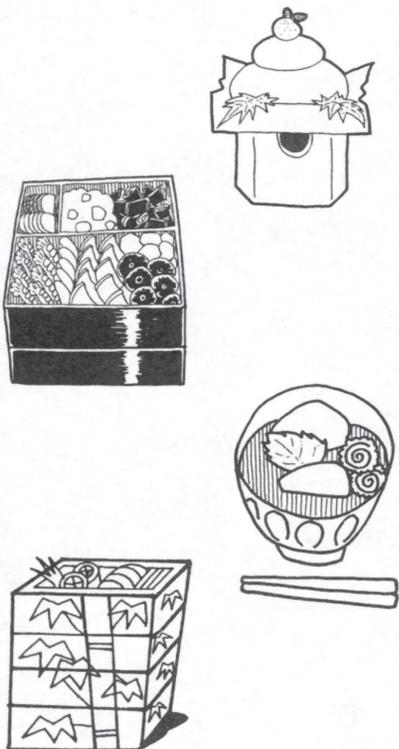
おせち料理

「おせち」という名称は古くは「節会」ということからおこっているようです。五節といつて、陰暦の一年中の季節のかわりめに、神仏に供えた食べものを節供といひ、これをすべし「おせち」といったことからきています。正月七日(人日)、三月三日(上

巳)、五月五日(端午)、七月七日(七夕)、九月九日(重陽)の五節句です。神仏に供えた料理ですから、正月の節供は、ニンジン、ゴボウ、ダイコン、コンニャク、ヤツガシラ、コンブ、シイタケ、レンコンなどの煮しめをさしこれをおせち煮といひ、各家庭独自の配合と味が生かされてくるのが本来なのです。それが江戸時代に、正月の

三カ日の保存食である「食積料理」と混用され、正月三カ日を祝ういろいろな取看——を盛りこんだ重詰めで、おせちとよばれるようになったものらしい。ですから、現在のおせちは、正月の三カ日にたべられる取看——が主体となっているもので、ほんとうの意味のお節料理ではないわけです。

薬剤師 高木 丈夫



こどもの病氣シリーズ

『咽頭炎・扁桃炎』

〈どんな病氣〉

咽頭とはいわゆるのどちんこの周辺で、ここに炎症をおこしたものが咽頭炎です。また、扁桃とはのどの両側にあるリンパ腺で、ここに炎症がおきたものが扁桃炎です。

どちらの炎症も、そのほとんどは、かぜを引き起こすウイルスが原因です。ウイルスが原因なので基本的には症状はそれほど重くなく、かぜと同様のケアをしていけば数日で治ります。

一方、頻度は高くありませんが、細菌が原因でおこるものには注意が必要です。溶連菌・肺炎球菌・インフルエンザ菌(インフルエンザウイルスとは別のものです)などが原因になります。

細菌性咽頭炎・細菌性扁桃炎と呼びますが、こちらは抗生剤での治療が必要です。

〈症状〉

ウイルス性の咽頭炎は、発熱・軽い咳・鼻水などのかぜの症状がみられますが、呼吸器の一番浅い部分での炎症なので、あまり心配はいりません。

一方、ウイルス性の扁桃炎は39度前後の高熱が出て、声もかすれてきます。つばを飲み込むだけでものどが痛く、食事もとれなくなり、こちらは咳や鼻水といった症状はあまりみられません。

細菌性の咽頭炎・扁桃炎は高熱がひとつの目安です。熱が高いのに咳や鼻水などの症状がなくきげんが悪い、水分を飲ませようとすると嫌がる、ぐったりしているなどの様子が見られたら、早めに小児科を受診してください。細菌性の扁桃炎は、扁桃が赤く腫れるだけでなく、表面にべつたりと白いうみがつくことがあります。

〈治療〉

ウイルス性の場合、かぜと同じく、安静にしていれば回復に向かいます。

咽頭炎は2〜3日、扁桃炎の場合は急には良くならないのがあつうですが、1週間以内にはだいたい症状が消えるでしょう。

重症化がこわい細菌性の咽頭炎や扁桃炎は抗生剤を用いた治療が必要になります。

咽頭炎や扁桃炎の場合、のどの痛みはとも強く、つばを飲み込むのも痛くて食欲が落ちてしまうこともよくあります。食べれなくても、とりあえず水分がとれていけば安心なので、とにかく水分補給に努めましょう。それでも飲めない時は脱水症が心配なので、病院を受診しましょう。

養正会薬局 薬剤部



漢方と調剤

健康に感謝

ヤマト薬局

江北店

☎86-2973

群馬県江北町 ジャスコ前

処方せんはどこでも受付ます。